

日本アンダーライティング協会

第66回教育講習会をオンライン開催

感染症流行対策テーマに

日本アンダーライティング協会は2020年12月14日、第66回教育講習会をオンラインで開催した。内容は大きく分けて、①公衆衛生・疫学について②行政の仕事・役割③感染拡大防止策の三つ。まず初めに「公衆衛生」と「疫学」について、これまでの変遷という歴史的な観点に加え、水俣病や生活習慣病といった具体的研究内容の解説があった。「疫学」は公衆衛生や予防医学の

みならず、根拠に基づく医療(EBM)のエンジニアリングとして医学の発展に貢献している学問であるとの説明があった。また、疫学研究においての留意点は、①仮説・研究デザインが正確とは限らない②バイアス(偏り)が含まれている場合がある③政策に応用するには時間がかかる④の3点とした。

次に行政の仕事・役割に関して解説した。行政は、新型コロナウイルス感染症が流行してからは感染対策に注力しているが、平時は「栄養」「予防接種事業」「地域医療構想」「環境衛生」など幅広い業務を執り行っている



第66回教育講習会の様子

いう。感染症について、普段は「感染症発動向調査」を行っているが、感染症による健康危機の発生が予想される場合

「積極的疫学調査」を行い、疾病の全体像や特徴を把握・解明することで感染症の拡大防止に尽力しているとした。また、日本独自のアナログな方法ではあるがコロナウイルス第一波の感染拡大

を防いだ要因の一つとして「感染源調査(さかのぼり調査)」が非常に有効だったと述べる専門家がいる反面、対象者の数が多くなると対応できない脆弱性をほらむ点の指摘があった。また、新型コロナウイルスへの対応が遅れた原因として、当初、受け入れ可能な病院が全国に約400カ所弱で、「場所・設備・医師」が限られた中で対応だったことが医療機関の逼迫につながったとの分析があった。

次に、感染拡大防止に向けて何ができるかについて、坂田氏は具体的な感染プロセスについて方程式を用いて解説した。感染総数を減らすためには方程式を因数分解し、その各要素に対してそれぞれアプローチする必要があり、その中で最も有効な対策は「不要不急の外出の自粛や密の回避」や「マスク着用や手指の消毒」といった基本的なことだという。そして、コロナウイルスの感染にはかなり目が行くが、コロナの裏に潜む自殺者数の増加といった精神保健の

問題も公衆衛生の観点からは見逃すことができないとの指摘があった。最後のまとめには「医療従事者に加えて公衆衛生従事者への感謝の重要性」「未来の医療崩壊を防ぐための一人ひとりの行動変容」「自助・共助の意識向上」といった世間に対する坂田氏の力強いメッセージが込められていた。

質疑応答では「Go Toトラベルによる感染者数増加の有無」「ワクチンの現状・有効性」「接触を減らし

ていく中で共助の在り方」といった質問が寄せられた。リモート形式による講義だったが、質疑応答では受講者が質問を掲示板に書き込み、講師が回答するといった形式がとられ、受講者参加型の講義となるような工夫がみられた。

また、「もう一度見たい」「ライブ配信を見逃した」という会員向けに、アーカイブ配信も行われた。(文責・住友生命契約審査部医務査定室 岡室僚太)

また、「もう一度見たい」「ライブ配信を見逃した」という会員向けに、アーカイブ配信も行われた。